

令和5年8月22日開催

未来創造・教育力向上特別委員会

委員長報告

令和5年9月定例会

委員長 前原博孝

去る6月定例会において報告がありましたとおり、当委員会の委員長に不肖私が、副委員長に芝崎正太委員がそれぞれ互選されておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、去る8月22日に開催されました当委員会の審査概要について、順次ご報告申し上げます。

初めに、報告事項の1「本市における不登校対策について」報告を求めましたところ、次のような説明を徴しました。

本市における不登校児童生徒数は、年々増加しており、令和4年度には小・中学校全体で1,177人となっているとのこと。

不登校児童生徒数については、全国的にも増加傾向にあることから、令和5年3月31日に文部科学省から「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」COCOLO（こころ）プランが発出され、本市においても、実情に応じたプランの具現化に向けた不登校対策を進めているとのこと。

具体的な対策としては、適応指導教室の通室の利便性向上を図るため、新規に朝日教室を設置したことや、児童生徒の居場所の創出及び社会的自立に向けた支援の充実を図るため、モデル校9校に校内教育支援センター「ほっとルーム」を設置するなど、様々な対策を講じているとのこと。

また、不登校特例校の設置に向け、指導課内に検討組織を整備し、他市の状況を調査するなど、検討を進めているとのことでありました。

以上のような説明に対して、不登校特例校設置に向けた検討組織の詳細について問われ、これに対して、市教育委員会の職員により検討を進めており、今後は校長会やスクールソーシャルワーカーなどの学校関係者をはじめ、地域の主任児童委員など外部の意見も取り入れ、様々な角度から本市に合った不登校特例校の設置を検討していくとのことでありました。

このほか、「ほっとルーム」の利用者数について等、質疑応答の後、本報告を終了いたしました。

最後に、報告事項の2「いじめ根絶に向けた取り組み状況について」報告を求めましたところ、次のような説明を徴しました。

令和4年度川口市いじめから子どもを守る委員会の活動状況については、面接相談を11回、調査・調整活動を3回、定例会を12回行なったとのこと。

また、教職員のいじめ問題対応能力向上を図るため、委員と教職員との交流会を3回開催したほか、先進都市への視察研修を行い、電話受付に対応する職員の聴く力や情報の収集・活用能力等の向上を図ったとのこと。

市教育委員会においては、いじめ対応の質の向上を図るため、いじめ対応教員研修会を開催したほか、各学校からのいじめ認知・解消に係る報告について、

当日のうちに報告表に記録するなど、速やかな情報連携の重要性を指導しているとのこと。

いじめ問題に関する調査状況については、9事案について報告があり、1事案は、いじめ問題調査委員会による調査は終結したが、事案としては継続中とのこと。そのほかの8事案のうち、3事案において、いじめ問題調査委員会が設置され、このうち1事案は終結し、2事案は調査継続中であるとのこと。残る5事案は、保護者からいじめ問題調査委員会の設置を希望しない旨の回答があったとのことでありました。

以上のような説明に対して、各事案にかかわり、いじめ当事者間の話し合いの場で二次被害を生まないための対応について問われ、これに対して、当事者と事前に個別面談を行い、話し合いの目的を明確にしたうえで実施するよう指導するなど、市教育委員会として粘り強く対応をしていくとのことでありました。

このほか、いじめ対応についての交流会を少人数で実施した理由について等、質疑応答の後、本報告を終了し、委員会審査を終了した次第であります。

以上で報告を終わります。